

平成23年度 自己評価表

鳥取県立鳥取工業高等学校

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。</p>	<p>今年度の重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな学力の育成 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と生徒の進路実現 4. 地域や産業界とのパートナーシップの確立
---------------------------	---	-----------------	---

年度当初					評価結果 ()月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1	確かな学力の育成	① 授業改善と学力の定着	○生徒の授業評価アンケート結果に基づき、授業の点検を行った。 ○公開授業を各教科1回/年間以上実施した。	○学習内容の精選と教材・指導法の工夫により、わかりやすい授業に努め、生徒の基本的な学習習慣を確立させ、学力の定着を図る。 ○積極的な授業公開により、教科指導の研究と授業改善を行う。	○授業評価アンケートや基礎力診断テスト、校外模試の分析をとおして教材や指導法の工夫を図り、生徒の意欲喚起につなげる。 ○「5S」、「あさひ」の取り組みにより学習環境を整え、基本的な学習習慣の確立を図る。 ○各教科・各教科で年1回以上公開授業を実施し、事後の反省会等を持つ。また、日頃から他の教員の授業を積極的に見直し授業改善に努める。		
		② 主体的な学習態度と実践力の育成	○自己理解を深め、進路目標を確立させるために、定期的な進路希望調査や進路LHR、進路説明会、進学補習の取り組みを行った。 ○自宅学習調査の結果、理数工学科については学習時間が増加しているが、工業科は昨年度とほぼ同じであった。 ○朝読書は習慣化し、図書館の貸出冊数も増加した。	○進路目標を早期に確立し、主体的な学習態度を育む。 ○各定期考査ごとに目標を設定し、自宅学習の習慣化を図る。 ○読書への興味・関心を喚起し、読書が習慣化するよう、引き続き「朝読書」の充実を推進する。	○生徒・保護者との面談をとおして、適性等を活かした進路目標の早期確立を図る。 ○小テストや課題の実施、資格・検定と関連付けた学習指導等により、学習習慣の確立に努める。 ○自宅学習時間調査を分析し、学習の習慣化につなげる。目標は、理数工学科では2時間、工業学科では1時間以上とする。 ○「朝読書」推薦図書の紹介や図書館での身近なテーマ展示を実施し、読書の習慣化を図る。		
2	豊かな人間性の育成	① 互いを尊重する態度と社会性の涵養	○調査や面談等を実施し、生徒の状況を把握しながら課題解決に向けて取り組んだ。 ○性教育や人権教育の講演会及びLHR等を通じて他者を思いやる力を育てる取り組みを進めた。 ○教職員の実践力を高めるため校内の各種教職員研修を実施したが、校外での一人一研修は目標を達成することができなかった。	○ハイパーQ-U調査等を実施し、望ましい集団づくりに心がけるとともに、支援を要する生徒を把握し適切な指導を行う。 ○日々の生活の中にある人権問題に対する認識を深め、人権を尊重する態度を育成する。 ○教職員自らが研修等をおして自己を振り返り、学ぶ姿勢を持ち続ける。	○ハイパーQ-U調査やいじめアンケートの分析結果を、学級や個々の生徒の理解に活用する。 ○性教育、人権教育LHRを中心としながら人権意識を高める。 ○人権問題や異文化理解に関する具体的な学習内容を取り扱うとともに、教職員研修に努める。 ○教職員校外研修の情報提供を充実させる。		
		② 健全な心身と社会貢献精神の育成	○「5S」、「あさひ」の指導を行ったが、クラスによって取り組みにバラつきが見られた。 ○テクノボランティア、福祉ボランティア、桜ヶ丘グリーンゾーン活動に多くの生徒参加をした。 ○ゴミの分別の習慣化、消灯など環境に配慮した行動をとることができた。 ○部活動の全国・中国大会の出場者数、および生徒の部活動加入率は昨年度より大幅に増加した。	○「5S」、「あさひ」の取り組みを徹底し、自立に向けた「人間力」を育成する。 ○ボランティア活動等の参加を勧め、さらに他者への思いやりの心を育成する。 ○環境問題等、社会の変化に対応した教育の推進を図る。 ○部活動をはじめ生徒会活動に積極的に取り組み、中国大会・全国大会への出場者数の増加をめざす。	○SHR、各授業ごとに「あいさつ・作法」、「整理・整頓」等を徹底する。 ○テクノボランティアへの理解を深め、情報提供に努めて参加人数を増やす。 ○環境標語を募集、掲示し、生徒に啓発を行う。 ○部顧問と連携し、生徒の活動状況を把握し励ます。 ○生徒が部活動へ主体的に取り組めるように、教職員の支援体制を整える。		
3	キャリア教育の充実と生徒の進路実現	① 専門的な知識・技術の習得	○資格検定の受験の奨励や特別補習による継続的な指導、社会人講師と連携をとりながらの実技指導など充実を努めた。 ○ものづくりコンテストや各種競技会への参加を奨励し、一定の成果を収めた。 ○課題研究の成果を全体場で発表する機会を設け表現力の育成に努めた。 ○鳥工版デュアルシステムの希望生徒に対しての実施や「ものづくり講演会」を開催することにより職業意識の育成に努めた。	○進路意識を高め、国家資格・検定等の取得者数の増加をめざす。 ○ものを作る喜びをとおし、興味関心を持たせ、学ぶ喜びや他人を思いやる心などの真摯な態度を養う。 ○専門学科と連携し、企業との事業の充実を努め、生徒の知識や技術の習得を図る。	○各教科・各教科が推奨する資格・検定取得に向けて勉強会・補習を実施し、積極的に取り組ませる。 ○高校生ものづくりコンテスト・工業系競技大会への参加をいっそう奨励する。 ○「企業見学会」、「インターンシップ」、「鳥工版デュアルシステム」等を実施し、それらをおして、生徒のスキルアップに取り組む。		
		② 職業意識の育成と進路指導の徹底	○「企業見学会」や「インターンシップ」(工業学科全科で5日間実施)を計画どおり実施し、企業と連携した指導により職業観を養うことができた。 ○3年生の応募前職場見学会、求人事業所説明会、進路説明会をはじめ、各学年毎に進路LHR、模試、諸検査等を行い、進路意識を高め個々の進路に応じた適切な指導を行うよう努めた。 ○学校紹介による就職内定率100%を実現した。 ○進学補習を実施し学力の定着を図った。一方、工業学科生徒の進学模試の受験希望が少なく、意欲の喚起に十分つなげられなかった。	○「企業見学会」や「インターンシップ」などをおして、職業意識や勤労観を養うとともに、自らの生き方をじっくり考察させ進路選択や学習意欲を喚起させる。 ○引き続き、就職内定率100%を実現する。 ○生徒一人ひとりの思いや夢を大切に、自己実現につなげる進路指導を行う。	○進路指導部と学科が連携して各種行事・LHR等を行い、面接指導・志望企業の相談やアドバイスを行い進路意識が高まるよう指導する。 ○進路説明会・模試・諸検査および情報提供等を行い、生徒の思いや願いをしっかりと聞きながら、個々の進路に応じた適切な指導を行う。 ○生徒の進路目標実現のために必要な「学力」および「人間力」の育成を図る。		
4	地域や産業界等とのパートナーシップの確立	① 地域や産業界との連携強化	○「鳥工版デュアルシステム」においては、3年生14名が希望し、毎週1〜2回、3ヶ月間企業で研修して専門的な技術・技能の習得を図ることができた。 ○「鳥工産業教育懇話会」、「ものづくり講演会」、「企業訪問」を実施し、意見交換、情報交換することで連携を密にした。	○産業界が求める人材像や企業人としての在り方を把握し、職業観・勤労観の啓発等を企業と連携して指導し、地域の担い手となる人材を育成する。 ○地域の一人としての学校の在るべき姿を検討し、教育内容の改善につなげる。	○「インターンシップ」等の事前指導を実施するとともに、終了後に企業との反省会を開催することにより、現状把握や今後の行事の在り方等について協議し、情報を共有する。 ○「社会人講師」の導入、「先輩を囲む会」、「鳥工産業教育懇話会」、「ものづくり講演会」等で連携を強化する。 ○津ノ井地区懇談会を開催し、地域との連携を強化する。		
		② 開かれた学校づくりの推進	○学校HPの更新は、各分掌、各教科等が最新情報を基に適宜行った。 ○「鳥工TEC」、「課題研究発表会」、「科学遊び広場」、「出前授業」、「ものづくり教室」等を実施し、地域、企業、小・中学校にもものづくりに関する取組みの公開と内容についての情報発信をすることができた。 ○「学年別懇談会」、「学科別懇談会」等を実施したが、参加保護者数は延べ330人と昨年度とほぼ同数であった。	○HPを積極的に活用して、中学生・地域・保護者対象の情報発信に努める。 ○地域、小学校、中学校等に科学や英語授業を実施し、理科の楽しさや国際理解の推進に努め、理数工学科への理解を深めてもらう。 ○中学生、保護者を対象に、ものづくりの楽しさや完成したときの達成感等を体験する機会を設け、工業学科の取り組みについて理解を深めてもらう。 ○地域と連携した貢献活動に積極的に参加する。 ○保護者参加型の行事をとおして、保護者との連携を密にし、生徒の指導・支援を充実させる。	○学校行事、進路、部活動、資格取得、テクノボランティア活動等の最新情報を適宜更新する。 ○理科や英語などの出前授業を行う。 ○鳥工課題研究発表会等を実施する。 ○「桜ヶ丘グリーンゾーン活動」、「津ノ井地区文化祭」等へ参加する。 ○公共施設、独居老人宅等での照明器具の掃除・点検、簡単な修理、窓ふき等のテクノボランティア活動を実施する。 ○科別PTAなどPTA行事をとおして積極的に学校の教育活動を公開し、保護者との連携を密にする。		

注) 5S:整理・整頓・清掃・清潔・躰 あさひ:挨拶・作法・人の話を聞く

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [20%程度]